

令和 6 年 4 月 23 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12578

研究課題名（和文）メディア上のいわゆる「新型うつ病」 - 精神医学の観点からみた医療報道の質の評価 -

研究課題名（英文）So-called "New Depression" in the Media: Assessing the Quality of Medical Coverage from a Psychiatric Perspective

研究代表者

北 浩樹 (Kita, Hiroki)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・助教

研究者番号：40323092

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）： 新型うつ病とは従来のうつ病とは異なる特徴をもつ抑うつ体験反応の総称である。しかし医学用語ではなく、メディアにより命名され医学的に明確な根拠のないままに流布し社会に混乱が生じている。本研究では新型うつ病に関する新聞記事の解析によって、一般大衆に向けたうつ病に関する医療情報の実態を明らかにした。

その結果、職場における新型うつ病の増加という新型うつ病の動向を解説する記事が多かった。記事中の新型うつ病の概要は、日本うつ病学会による解説とほぼ合致するもので、正確で信頼性の高いものと考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型うつ病とは従来のうつ病とは異なる特徴をもつ抑うつ体験反応の総称である。しかし医学用語ではなく、メディアにより命名され医学的に明確な根拠のないままに流布し社会に混乱が生じている。診療の際には、医師が患者に新型うつ病がどのような病気であるかを診療の初期段階で説明するが、患者自身があらかじめ抱いている病気の印象を把握しておくことは、患者との円滑な意思疎通を開始するうえで極めて重要となる。

本研究では新型うつ病に関する新聞記事の解析によって記事中の新型うつ病の概要は、日本うつ病学会による解説とほぼ合致するもので、正確で信頼性の高いものと考えられた。

研究成果の概要（英文）： New-type depression is a generic term for a depressive experience that has different characteristics from conventional depression. However, it is not a medical term, but a name given by the media without clear medical evidence, causing confusion in society. In this study, we analyzed newspaper articles on new types of depression to clarify the reality of medical information on depression for the public.

As a result, many of the articles explained the trend of the new type of depression, which is the increase of the new type of depression in the workplace. The articles were accurate and reliable, and the overview of the new type of depression in the articles was almost consistent with the explanation by the Japanese Society for Depression Research.

研究分野：健康情報学

キーワード：新型うつ病 医療情報 メディア 新聞 テキストマイニング

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年, 新たな特徴をもつ抑うつが存在が認識されており, いわゆる新型うつ病として知られている. しかし新型うつ病という専門用語は存在せず, 啓発書やマスメディアで使われる新型うつ病は, 教科書的なうつ病のプロトタイプに合致しないうつ病・抑うつ状態を広く指して用いられている.

(2) 精神科診療の際には, 医師が患者に新型うつ病, ないしはこれに類似する精神疾患がどのような病気であるかを診療の初期段階で説明するが, 患者自身があらかじめ抱いている病気の印象を把握しておくことは, 患者との円滑な意思疎通を開始するうえで極めて重要となる. そのため, 新型うつ病に関する医療情報は啓発書やマスメディアが主導して社会に流布してきた経緯を鑑みると, 新型うつ病がメディアでどのように報道されているかの検証が必要と考えた.

2. 研究の目的

メディアとして新聞を取り上げ, 新型うつ病に関する記事を検索し, その報道内容を明らかにする.

3. 研究の方法

(1) 研究対象を読売新聞(読売), 朝日新聞(朝日), 毎日新聞(毎日)の3紙とし, 各々の新聞記事データベースである

ヨミダス歴史館, 朝日新聞クロスサーチ, 毎索を用いて新聞記事の検索を行った. 検索期間は各々の新聞記事データベースの検索可能開始年から2022年12月31日とした. キーワードを「新型うつ」として検索し, 検索結果として得られた記事のテキストデータを資料とした.

(2) まず記事数の年毎の変化を調べ, 次にテキストデータをソフトウェア KH Coder¹⁾を用いてテキストマイニングを行った. テキストの分析としては共起ネットワーク分析, クラスタ分析, および対応分析を行った.

4. 研究成果

(1) 各紙の検索記事数は, 読売が13件, 朝日が30件, 毎日が17件となった. これらの合計60件を研究対象の記事とした. 3紙合計の記事数の変化をみると, 2009年に最初の6件がみられ, 2012年にピークの15件を迎えるが, これ以降は急減し2020年は0件で, 2021年の1件が最後であった(図1). つまり2012年頃をピークとした一過性の現象だったと考えられた. 語の出現回数は「うつ病」(144回)が最も多く, 次いで「人」(134回), 「治療」(87回)が多かった. 特徴的な語としては「仕事」「増える」「社会」「多い」「職場」などが多かった(図2).

(2) テキストの分析では, 共起ネットワーク分析(図3): 「原因」「仕事」「治療」「動向」「ネット依存」「診断」の特徴を有する6つのグループに分類された. クラスタ分析(図4): 「治療」「名称」「動向」「社会背景」「原因」「仕事」の特徴を有する6つのクラスターに分類された. 対応分析(図5): 成分別の語の布置位置をみると, 左右方向においては, 左に行くほど「研究」「治療」「医師」などの治療する側の語群, 右に行くほど「自分」「上司」「思う」「言う」などの治療される側のように患者の個人的側面に関連が深い語群が布置されていることが

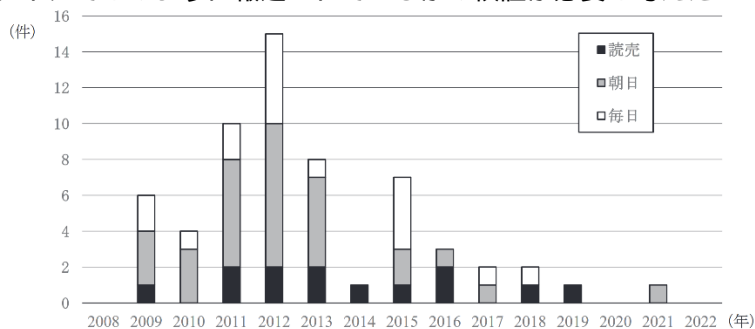


図1 記事数の変化

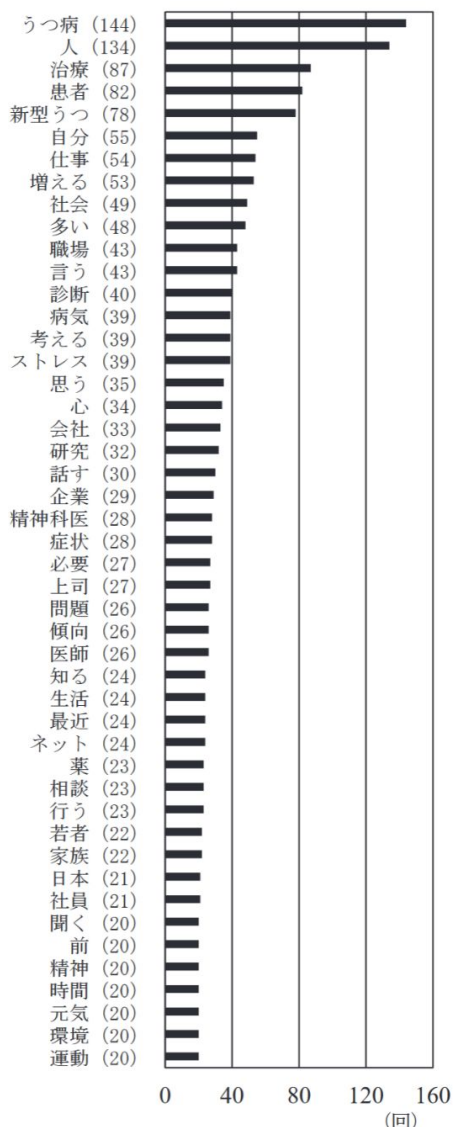


図2 抽出上位の語

ら，成分1軸は医療の立場を弁別する次元と考えられた．また上下方向においては，下に行くほど「研究」「企業」などの研究開発に関する語群，上に行くほど「医師」「患者」などの治療に関連の深い語群が布置されていることから，成分2軸は医療の研究と臨床を弁別する次元と考えられた．原点近傍に布置された語群は新型うつ病の概要に関する語が多く，これらは出現が平均的な語群で『職場のなかで新型うつ病が増加している，多くなっている』との主旨の文脈で出現していた．したがって新型うつ病に関する新聞報道を特徴付ける重要な要素として，職場における新型うつ病の増加をあげることができると考えられた．また原点から遠くに布置された「研究」「医師」「企業」は医療の研究開発に関連が深い語群で，これらは出現が特徴的な語群であった．

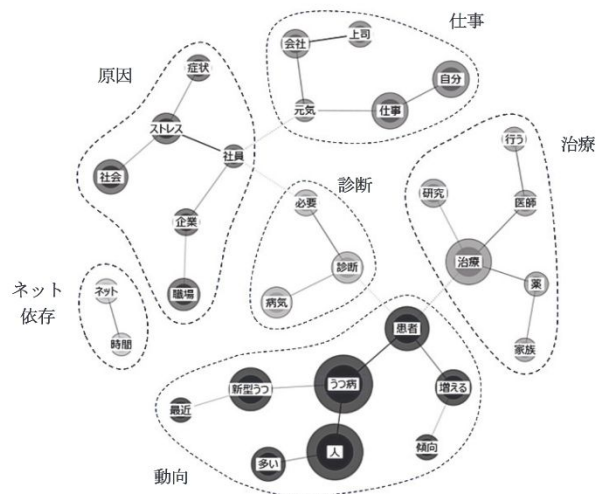


図3 共起ネットワーク分析

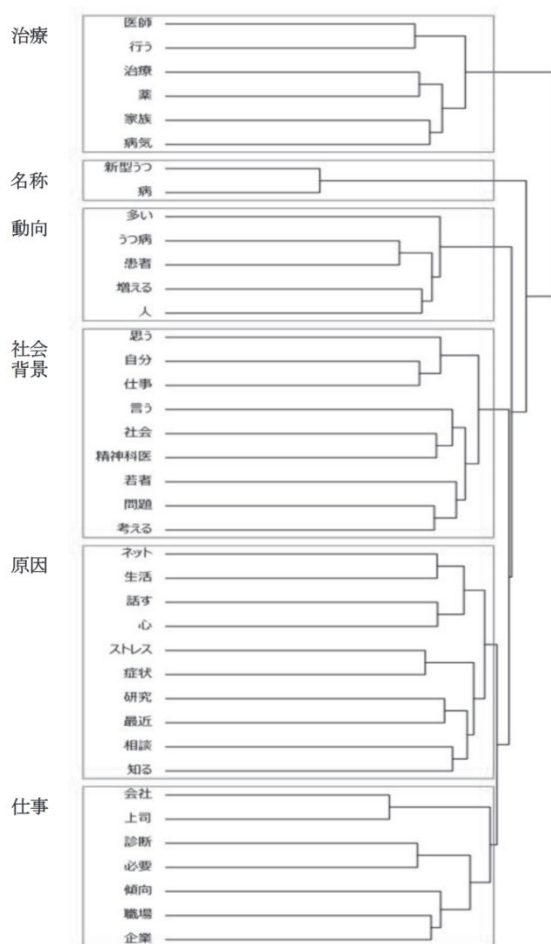


図4 クラスター分析

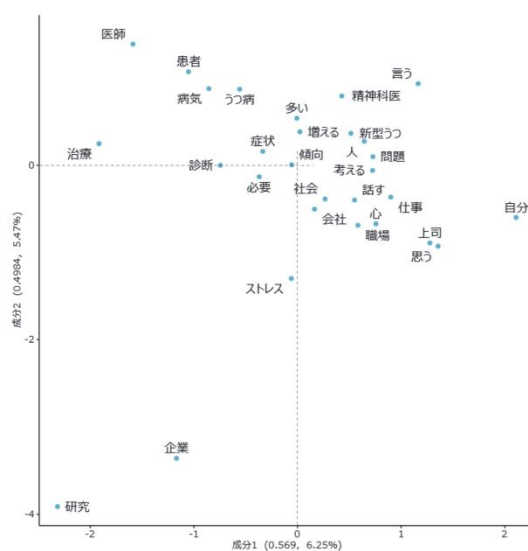


図5 対応分析

(3) 記事中の新型うつ病の概要は，日本うつ病学会による解説とほぼ合致するもので，正確で信頼性の高いものと考えられた．

(4) うつ病の新聞報道²⁾との相違点としては，新型うつ病の新聞記事数はうつ病の僅か0.26%に過ぎず，新型うつ病の記事数はうつ病と比べてきわめて少なかった．また，うつ病の特徴的な語は「自殺」が最も多く，自殺や労災に関するものが多かった一方で，新型うつ病に関する本研究結果では，「自殺」は出現数の多い特徴的な語とはならず，共起ネットワーク分析とクラスター分析においても「自殺」

を含むグループやクラスターは形成されなかった．このように「自殺」に関する題材の多寡が，うつ病と新型うつ病との記事における明確な相違点と考えられた．これは自殺の原因に重度のうつ病が深く関連することが多いのに対し，新型うつ病は全体に軽度で症状は軽度のうつ病と類似するとされるように，自殺に至るような重症のうつ病とは本質的に異なる病態であるためと考えられた．

<引用文献>

- 1) 樋口耕一．社会調査のための計量テキスト分析第2版．ナカニシヤ出版，2004．
- 2) 北浩樹，伊藤千裕，木内喜孝．全国3大新聞にみるうつ病の医療情報 - テキストマイニングによる解析 - ．東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 2022；8：285-292．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 北 浩樹, 伊藤千裕, 木内喜孝	4. 巻 8
2. 論文標題 全国3大新聞にみるうつ病の医療情報 - テキストマイニングによる解析 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要	6. 最初と最後の頁 285-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北 浩樹, 伊藤千裕, 木内喜孝	4. 巻 10
2. 論文標題 新型うつ病の医療情報 - 全国3大紙のテキストマイニングによる解析 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 第10号	6. 最初と最後の頁 187-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 千裕 (Ito Chihiro) (60292330)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・教授 (11301)	
研究分担者	木内 喜孝 (Kinouchi Yoshitaka) (20250780)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・教授 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------